

日 々 好 日

みんなの南部

見とこ・知とこ



不思議な液体に興味津々

実験ではさっそく、ヘリウムガスを使うと声奇妙になり、真空中では音は伝わらなかつたり、といった、実に不思議な現象が観察された。また、この日は「かまくら祭り」に、町内から2000人が参加しました。

また、液体窒素を使いマイナス200度の世界を演出。バナナはカチコチに凍り、ゴムボールは伸縮性がなくなり、落とすとガラスのように粉々に砕け、花も瞬時に凍るけど、人の手は二・三秒液体につけてもなんともないなど、生徒たちは異世界の不思議体験に興奮していました。

義久君は「電子レンジで金属を入れたピーカーを熱したら爆発したのを見てびっくりした。」と興味をそそられた模様。

この日はやはりいつもの理科の授業が手品のような科学に魅せられ「ワクワク」した授業になりました。

2月10日(木)に南部中学校の一年生(36人)が、科学の体験学習で「おもしろワクワク科学実験」と題し、島根大学の曾我部国久教授から科学の楽しさを学びました。曾我部教授は、「小さい時からいろんな体験をしてほしい、体験することによって身につく」と理科好きになってもらおうと、全国の子どもたちを相手に飛び回っています。

マイナス200度の世界を体験



凍ったマシュマロを試食

不思議なことなんだ」と科学で証明。

鬼をやっつける

2月14日(月)に総合福祉センター「いこい荘」で、子育てサークルの「かきっ子クラブ」と「にじいろポケット」の交流豆まき大会が行われました。

会場には、26組の親子が集まり、子どもたちは家で作った鬼の面をかぶりながら、「鬼は外！福は内！」と元気な声で、ダンボール鬼にボールをぶつけ、悪い鬼をやっつけました。

次に、衣装した青鬼が登場すると、あちこちで泣きだす子どもでしたが、勇気をふりしぼりみんなが青鬼を退治しました。

鬼退治が終わるとみんなで豆を食べ、いつもは両地区で活動をしている二つのサークルも今後の活動にむけ交流を深めました。



ダンボール鬼を退治

「かまくら祭り」に大喜び

2月27日(日)に行われた「かまくら祭り」に、町内から2000人が参加しました。

参加者は、凧づくり、フェルト手芸、餅つきを楽しんだ後、おしるこ、猪汁を堪能しました。夕方にはみんなが作った「ミニかまくら」の口ウソクに火をつけ、その炎のゆらめきに心を寄せました。

参加者からは「来年もぜひ企画してほしい」と声が上がっていました。



幻想的な世界



みことな「かまくら」です

「子ども夢議会」で町づくり

町内の3つの小学校で、12月から学んできた社会科の「生活と政治」の授業の集大成として、子どもと大人といっしょになって町づくりについて考えようと「子ども夢議会」が、2月24日（木）に天萬庁舎の議場を使って行われました。3校を代表して6年生10人と5年生1人の子ども議員が、町長に質問しました。



子ども夢議会の議長を務めた西伯小学校の遠藤和希君（6年生）が「合併したお互いの良いところを大切にし、子どもも大人も一緒になって新しい町づくりを考えていきましよう」とあいさつしたあと、11名の子ども議員は、壇上で次々に質問を行いました。

質問は、身近なペット飼育のことから、部活動、買い物をする店の誘致、インターネット環境の整備、今後の南部町のことで幅広い内容でしたが、町長、教育長から丁寧な回答が得られるとみんな納得していました。

一番議員の古田雅仁君（西伯小学校6年生）は「最初の僕が失敗すると次の人も失敗するかもしれないと言われていたので、とても緊張した。でも、うまくできたと貴重な体験を振り返っていました。」



見事な議長役の遠藤和希君



小早川茄捺さん（会見小学校6年）
「議会のしくみや、話し合うことの大切さがわかりました。」



北山 世奈さん（西伯小学校6年）
「一生できないかもしれない体験ができてよかった。」



住宅でのペットの飼育について質問する
松田 伸君（会見第二小学校5年）

「くんには・ニーハオ・グーテンターク

2月20日（日）に南部町国際交流協会主催の外国語スピーチ発表会及び異文化交流会が、西伯公民館で行われました。

町内に在住の外国人の方との交流を目的にはじまった、この発表会も9回目をかぞえ、今年は町内から6組の個人・団体の参加があり、英語、ドイツ語、韓国語、中国語と多国籍の言葉が飛び交いました。

天萬から初めて参加した鈴木哲さんは、習い始めてまだ4カ月ながら一生懸命に中国語で自己紹介をし、見に来ていた中国人の方から盛大な拍手がおきました。とてもフランクな会で、少しでしゃべればみなさん参加してはどうですか。



真剣に話される鈴木さん